

令和 8 年度土木学会全国大会における研究討論会

1. 令和 8 年度の研究討論会について

2025 年度は研究討論会の案について応募がなかったため、大島委員長、糸井副委員長、天野副委員長、中島幹事長、鶴留幹事らとメールにて討議を行い、令和 8 年度の研究討論会は開催せず、次年度に向けた準備期間にすることとした。

なお、“「地盤の過剰間隙水圧上昇と消散に伴う変形の評価」ガイドライン」と題して、地震工学委員会と原子力土木委員会の連名による討論会が予定されている（地震工学会が主導、原子力土木委員会から中村先生が参画）。

2. 次年度に向けた今後の進め方

本年 6 月 23 日の幹事会において、以下の手順で次年度に向けた準備を進めることを確認した。

- ① 幹事団からの意見の募集（メールにて）
 - ・ 討論会のネタになり得る「課題」、「成果」、「取り組みたい事項」など
 - ・ 討論会の開催を前提とせず、出来るだけ自由な意見を集める
 - ・ 討論会の在り方に関する意見も受け付ける
- ② 意見交換（幹事会にて）
 - ・ ①で集めた意見をもとに、幹事会にて意見交換を実施
- ③ 2027 年度（令和 9 年度）の開催方針の確定
 - ・ 開催の有無、具体的なネタ案、座長候補。
 - ・ ここまでを 2027 年 2 月中に済ませる（全国大会事務局への応募は 3 月初旬）。

参考 1 2011 年以降の研究討論会開催状況

開催年度	開催地	タイトル
2026	北海学園大学 北海商科大学 (オンライン)	開催せず
2025	熊本大学 (オンライン)	数値解析における不確実さと原子力施設の安全性評価における課題
2024	東北大学 (オンライン)	不確実性の諸相とリスクコミュニケーション (リスクコミュニケーション小委員会による主催)
2023	広島大学他	開催せず
2022	京都大学他 (オンライン)	リスク情報を活用した原子力防災への取り組みに向けて
2021	東海大学 (オンライン)	原子力安全に係わる分野横断の壁の現状と打開の方向性
2020	名古屋工業大学	開催せず
2019	香川大学	地震・津波に対する重要インフラのリスク評価への高性能計算の活用
2018	北海道大学	開催せず
2017	九州大学	原子力土木委員会での危機耐性への取り組み
2016	東北大学	原子力関連施設と断層変位
2015	岡山大学	東北地方太平洋沖地震津波を踏まえた津波評価技術
2014	大阪大学	原子力安全と原子力土木委員会の果たす役割
2013	日本大学	開催せず
2012	名古屋大学	開催せず
2011	愛媛大学	開催せず

参考 2 地震工学委員会、原子力土木委員会連名の研究討論会

【委員会】

地震工学委員会、原子力土木委員会

【タイトル】

「地盤の過剰間隙水圧上昇と消散に伴う変形の評価」ガイドライン

【主題】

地震時の液状化に伴う地盤沈下等の地盤変状は、過剰間隙水圧の上昇からその後の消散に至る過程で生じる。本研究討論会では、この地盤変状が構造物に及ぼす影響を適切に評価し、構造物の性能評価に反映させるためのガイドライン案と、その理解に必要な現象解説の概要を紹介する。

さらに、様々な地盤条件における評価事例を示し、液状化を扱う現行の性能設計が抱える課題に対して、当該ガイドラインが果たし得る役割について、管理者および実務者の視点から討論を行う。

加えて、多様な不確実さの下で応答値を評価するために必要となる調査・試験・解析技術について、今後導入すべき技術や研究の方向性についても議論を深める。

【座長（敬称略）】

仙頭紀明（日本大学）

【話題提供者（敬称略）】

上田恭平（京都大学）

一井浩二（関西大学）

中村晋（日本大学）

吉田望（関東学院大学）

以上